

ワークサポート篠ノ井・ハートフル五明

令和7年度 第1回合同地域連携推進会議 議事録

- 1 日時 令和7年9月25日（木）14時00分～15時40分
- 2 場所 篠ノ井施設管理棟2階会議室
- 3 出席者 地域関係者等／寺嶋千広、馬場宣敏、中村加代子、月岡弘美、宮岡敏子、
（敬称略） 清水久美子
法人／村上巧、波母山朗、依田元一、横谷吉昭、青木新吾

4 議事

(1) 地域連携推進会議について

[国報酬改定資料にて説明（村上）]

(2) 施設の現状・課題等について

[ワークサポート篠ノ井・ハートフル五明重要事項説明書、コロニー後援会資料にて説明（村上、波母山）]

(3) 質疑応答

○利用者年齢について

Q：資料では、施設利用者の構成で80歳以上の方もいるが、何歳までの方を支援するのか。年齢に上限はあるのか。

A：年齢に上限はありません。

○食事の提供について

Q：食事について、コロニーでは、デリクックちくまに委託しきちっとした食事を出しているが、他の施設では、レンジでチンするような業者に変更して評判が良くないと聞いている。

A：今年度から、デリクックちくまでも、人員の不足や物価高騰への対応からコスト削減が必要となり、クックチル方式により食事を提供するよう変更になりました。利用者の方の一部からは、調理に対する不満の声が出ることもあるが、その都度、栄養士を通じてデリクックちくまと情報

共有を図り、改善するよう努めています。特に入所者の方は、食事を楽しみにしており、要望も高いと感じています。

○地域移行について

Q: 入所施設が不足していると聞くことがあるが、コロニーの入所施設では、2部屋を1部屋として使用しているとのこと。人出不足でそうしているのか、入所希望者がそんなに多くないためそうしているのか、どちらか。

A: 法改正により、施設入所の対象となる者は、支援区分4以上が基本となり、入所条件が厳しくなっています。また、地域移行を推進する方針が示され、地域で生活ができる方は可能な限り地域で支え暮らしてもらうこととしており、入所者は増えない傾向です。

Q: 地域移行の方向性について、反対する人はいないのか。民生委員をやっているが、地域の方も低下しており、地域で支えるのは簡単ではない。精神障害の方なども増えてきており、対応が複雑化している。超高齢社会の中、民生委員など支える側として現実と理想とのギャップに悩んでいる。

A: 国では地域移行を進めており、その方向性は理解できるが、施設入所を希望する方もいます。状況により地域で暮らすことが困難な方を受け入れることは入所施設の使命でもあると認識しています。ご本人の意向も踏まえて対応する必要があると考えます。

Q: 8050問題よりも進み、今や9060の状況となっている。旧市内のマンション建設が盛んな地域では、ドアを開けてくれないケースもあり、地域で支援するのは困難となっていると聞いている。孤独死も何件がある中で、地域で支えることはできるのかと感ずることもある。

A: 本日の地域連携推進会議は、地域の方とつながり、協力しながら支えていくということを目的としています。より良い関係をつくり、情報交換しながら、それぞれのケースについて検討し支えていく必要があるものと考えています。

一般的な話ですが、人口減少社会で人出不足が顕在化していることも

影響していると思います。どこの施設も人出不足で困っていると聞きます。コロニーでも来年度新卒の採用者に内定を出したが辞退されてしまいました。大変残念ですが、そのような状況下で、地域の皆さんとのつながりをつくっていく中で、それが人材の確保にもつながればありがたいと考えています。

ワークサポート篠ノ井・ハートフル五明
令和7年度合同地域連携推進会議 構成員名簿

■地域関係者等 (敬称略)

	ワークサポート篠ノ井	ハートフル五明
利用者	寺島 千広	欠
利用者家族	馬場 宣敏	中村 加代子
地域の関係者	月岡 弘美 (五明区副区長)	月岡 弘美 (五明区副区長)
福祉に知見のある者	宮岡 敏子 (苦情解決第三者委員)	清水 久美子 (苦情解決第三者委員)
長野市担当者	小林 桃子 (市障害福祉課)	高野 晃弘 (市障害福祉課)

■法人 (出席職員)

理事長・ワークサポート篠ノ井所長	村上 巧
ハートフル五明所長	波母山 朗
法人本部総務部長	依田 元一
総務部部長	横谷 吉昭
ワークサポート篠ノ井課長補佐	青木 新吾